



藤後左右展

闘う！俳人

没後20年
記念企画展

2012年
2月1日(水)～4月30日(月)

休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)
開館時間 9:30～18:00(入館は17:30まで)
会場 かごしま近代文学館 2階常設展示室
観覧料 大人300円、小・中学生150円
(常設展と共通)

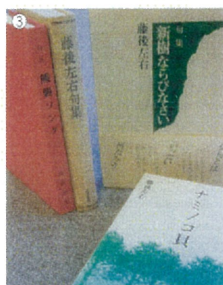
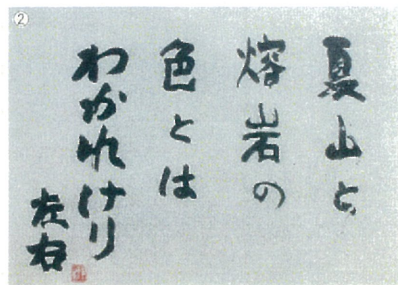
かごしま近代文学館

没後20年記念企画展

闘う！俳人 藤後左右

平成23年度は、鹿児島県出身の俳人・藤後左右が1991(平成3)年6月11日に亡くなってから20年という節目の年に当たります。藤後左右(本名・惣兵衛)は、鹿児島県曾於郡志布志町(現・志布志市)に1908(明治41)年に生まれ、第七高等学校を経て京都帝国大学に入学、この頃より俳句を志します。大学在学中に「ホトトギス」の巻頭を飾りますが、「五・七・五」の定型に疑問を持ち始めます。大学卒業後は、平畑静塔らと「京大俳句」を創刊、自由放胆で独創的な作品を発表しましたが、やがて医学の道に専念。太平洋戦争時は南方で戦火のなか、軍医として野戦病院に勤務しました。戦後は、故郷に病院を構える一方で、口語俳句を提唱し、「五・七・五」を解きほぐす工作にとりかかります。また、晩年は志布志湾公害の反対運動に携わり、公害被害について訴えました。

このように、藤後左右の生涯は、常に闘いと共にありました。本展では、闘う俳人・藤後左右の半生を振り返ると共に、その中で生み出された俳句の数々を紹介いたします。



① 第七高等学校時代 ② 書「夏山と熔岩の色とはわかれけり」…七高時代に詠んだ句。現在、桜島にこの句碑が建つ。③ 句集『榎蘭ソング』『藤後左右句集』『ナミノコ貝』『新樹ならびなさい』…どれも左右らしいのびのびとした軽妙洒落な句が並ぶ。④ 句帳…口語俳句にこだわり、新しい俳句形式の確立に生涯をかけた左右の苦闘の歴史が刻まれている。

関連講座「俳人・藤後左右の魅力」

講師 淵脇 護氏(俳人、「河鹿」主宰)
日時 平成24年2月12日(日) 13時半～15時
会場 かごしま近代文学館 メルヘンホール
定員 70人(超えたら抽選)
申込み 往復はがきで、住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、2月3日(必着)までに、かごしま近代文学館「藤後左右講座」係まで。

交通案内

市電【朝日通】・バス【金生町】下車…徒歩7分
カゴシマシティビュー【西郷銅像前】下車…徒歩3分
※駐車場 17台(うち2台は身体障害者専用)無料

かごしま近代文学館

〒892-0853 鹿児島市城山町5番1号
TEL 099-226-7771
URL <http://www.k-kb.or.jp/kinmeru>

